

令和2年度 第1回「認知症にやさしいまちづくり分科会」(書面会議)

意見聴取の結果と回答

意見①	事業内容の継続、発展が期待される。 特に ICT を用いた事業の充実、さらにはリアル開催の検討をお願いしたい。
【回答】	コロナ禍において、事業縮小・中止を余儀なくされる事業があった中、小規模の集い(認知症カフェ)をオンラインでつなぐ「認知症トークカフェ伊勢つながりタイムオンライン plus」の開催や、認知症初期集中支援チーム員会議にオンライン会議を取り入れるなど ICT を活用した新たな取り組みを実施しました。 今後も ICT の効果的な活用を進めていくとともに、従来からの人と人のつながりを大切にしたい取り組みについても、感染症防止策を講じながら最大限実施していきます。
意見②	見守り協定の普及啓発が必要である。 協定締結機関名や内容が知られていない。
【回答】	高齢者等の安心・安全を見守るための体制づくりのひとつとして、「地域における見守り活動に関する協定」を締結し取り組みを進めています。 また、企業においては、認知症サポーター養成講座を受講したのち、協力機関として登録し、日頃の訪問・配達・接客等の業務の中で見守り活動を行っていただいております。 今後も見守り締結機関や協力機関を含めた見守り体制について、認知症サポーター養成講座やホームページ等を活用して市民への周知を行います。
意見③	認知症の方を地域でみていけるようなまちづくりを今後もすすめて下さい。
【回答】	今後も市民の皆さまが認知症になってもできる限り住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、事業の更なる強化・充実を図っていきます。
意見④	コロナ禍で、認知症家族の会伊勢つどいの活動が従来のかたちで開催できない中、全国研修会 in 三重を活用したサテライト開催の機会を活用した取り組みを行いました。例年の活動も含め、地域包括支援センター等の専門職の協力、連携が得られることに、感謝し、今後の活動内容の充実のために更なる連携をお願いします。
【回答】	認知症にやさしいまちづくりの視点から、各関係機関・団体と引き続き情報交換や、連携を積極的に図りながら取り組みを進めていきます。

意見⑤	<p>コロナ禍で、学童での認知症キッズサポーター養成講座を今年度は行えずにいましたが、「認知症にやさしい応援団こども作文コンクール」の作品を見て、次世代を担う子どもたちへの認知症の正しい理解を深めるための取り組みの大切さを再認識するとともに、講座を再開したいと思いますので、引き続き協力をお願いします。</p>
【回答】	<p>未来の地域の支え手である子どもたちや、その保護者や家族などを包含した取り組みのひとつとして、認知症キッズサポーター養成講座等の次世代育成の取り組みをすすめています。今後も、関係機関の協力を得ながら、感染症防止策を講じ、最大限実施していきます。</p>

意見⑥	<p>集いの場での活動や、町会長としての務めを通し、早期発見が難しい認知症初期の段階であっても、住民は日頃の何気ない近所付き合いの会話から『気づき』を持っていることが多いと感じる。</p> <p>また、当自治会では、独自に一部役員の役割として認知症が心配され、見守りが必要だと思われる方に寄り添いながら見守る仕組みを実践している。</p> <p>さらに、私たちの地域は市内でも高齢化率が高く、地域を支えていくためには高齢者の力が不可欠であり、近隣住民による支えあいのしくみが重要と考えている。</p> <p>以上から、自治会等の地域組織による見守り活動についてお願いするなど、さらに協力を得るのが良いと思う。</p>
【回答】	<p>認知症への理解促進や地域での実践的な見守り活動を進めるため、一般市民向けの認知症サポーター養成講座のほか、学生や企業向けにも積極的に取り組んでいます。</p> <p>さらに、認知症サポーターがより具体的な見守り活動を行うための「チームオレンジ」の育成も実施しています。</p> <p>今後は、自治会やまちづくり協議会などの地域組織を対象とした認知症サポーター養成講座の開催や、見守り活動の取り組みについても、積極的に取り組んでいきます。</p>

[事務局] 伊勢市健康福祉部 高齢者支援課(包括支援係)